

入学おめでとう

入学を祝して



中央大学学長
河合 久
KAWAI Hisashi

今春、中央大学に学びの場を求める皆さんを、教職員一同、心から歓迎致します。皆さんは今日、中央大学の歴史を共に築く私たちの仲間に加わっていただきました。大学進学のために重ねられたこれまでの努力を讃えますとともに、本学への入学をお祝い申し上げます。

さて、学問や研究は、実社会とそこに生きる人々に無縁ではなく、現実事象から課題を発見し、理論を還元するといった形で、社会の営みとの相互作用により発展すべきです。常に時代とともにあり、社会の変化に適合するよう進化します。「實地應用ノ素ヲ養フ」に凝縮される中央大学の建学の精神は、このような学問研究の姿勢に根ざす教育観を表したものです。「素」とは社会に応用できる力の素地であり、「素ヲ養フ」とは知識はもとより、さまざまな体験や人との交流の中で培われるコミュニケーション力や議論する力、組織的な判断力、そして弛まず学び続ける力の涵養にほかなりません。

今日の社会基盤や産業構造の激しい変化は、物事を見るアングルを固定化できないほど加速しています。また、多様化の時代を迎え、私たちは自分の得意分野にこだわらず、異分野との融合、そして、まったく新しい人間関係や組織間の有機的相互関係をもって、新たな世界を共創していく時代に直面しています。これから本学で学び、学生生活から得る成果を、新たな世界に価値あるものとして実装できるよう心掛けていただくことを、心から期待しています。そのことこそが本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性。」を、ご自身によって体現することになるからです。

所属学部での学びから得た知識を日常の人間行動や社会の動きに当てはめて考える習慣を身につけるのもよいでしょう。そして、学生時代にしか得られない友人を多く作り、自分の考えを披歴したり共有したりして、語り合うことで知性は拡がりを見せるはずです。自分に殻を作らず、勇気をもって一歩進んでください。

私たち教職員一同は、希望と志をもって勉学に励む皆さんを、精一杯、応援しています。くれぐれも健康に留意され、将来に向けた歩みを着実に進められることを心から願っています。皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、お祝いのご挨拶と致します。



法学部長
遠藤 研一郎
ENDOOU Ken-ichirou

厳しい寒さが身に染みる季節も終わりを告げ、暖かい陽気となりました。この4月に中央大学に入学された皆さん、ご入学、おめでとうございます。

皆さんは、今、どのような気持ちでしょうか。最初に念のため申し上げておきたいのですが、これから経験する学生生活は、おそらく、試行錯誤の連続だと思います。時には自分を見失ったり、ゴールが見えずに途方に暮れることもあると思います。しかし、1つも「失敗」は、ありません。これからの学生生活の全てが、「経験」です。是非、学問に落ち着いて身をおいて、多くの経験を通じて、学ぶことの難しさ、奥深さを実感してもらいたいと思います。

特に、法学部に入学した諸君へ。皆さんがこれから学ぼうとしている「法」とは、どのような存在でしょうか。時には社会をコントロールし、時には私たちの背中を押し、時には争いを解決し、時には限りある資源を分配するなど、私たちの社会の中で重要な役割を果たしているものです。人が共存して社会が作られるところに、常に法があります。それは、歴史を見ても明らかです。では、法学とは、何を目指した学問なのでしょうか。非常に簡潔に表現すれば、私たちの生活・社会をより良くするためのルールを模索する学問といえましょう。過去の歴史を回顧し、現在の法を理解し、そして未来志向的にあるべき法の姿を考えるのです。特に、電子技術が飛躍的に進歩したり、少子高齢化が進んで人口が減少したり、国際社会での日本の立ち位置が変わったりするなど、社会構造が大きな曲がり角を迎えている今日においては、新たなルール作りが必要不可欠です。そのような意味で、今、法を学ぶ意義は大きいものがあると思います。また、法学には、絶対的な解がありません。それが、自然科学とは絶対的に異なる点だと思いますし、法学の難解な点でもあるし、魅力でもあります。時には、得体が知れない闇に包まれそうになるかもしれませんが、しかし、そのような時は、その闇を楽しんでください。学問の前で、苦悶の時間を重ね、知的好奇心を呼び起こし、そして、何度も「なぜ?」という問いを繰り返してください。問い続ければ、その先に、きっと新しい景色が見えてくるはずですよ。

努力までなら、誰でもします。でも、そこから一歩抜き出すために何をすべきか、考えてみましょう。さて、挑戦の時間です。皆さんの健闘を期待いたします。



経済学部長
佐藤 拓也
SATO Takuya

ご入学おめでとうございます。皆さんが経済学部に進学した理由は何でしょうか。経済学部が第一志望だった人、学部よりも中央大学を志望していた人、実はそのいずれでもなかった人。理由はともあれ、私は、皆さんが経済学部に進学したことは、とても良かったことだと思っています。それは、経済学は簡単に正解が出る学問ではなく、本やインターネットの文章を暗記しても、何にもならない学問だからです。

たとえば、「少子高齢化が進むと高齢者を支える人が少なくなる、だから年金制度を維持するには消費税を増税するしかない」といったことが、ニュースやワイドショー、時には政府や「識者」からも言われます。これは、ある見方に基づけば正しいですし、別の見方に基づけば正しくありません。ここではほんの一例にすぎませんが、一口に「経済学」と言っても、そこには多種多様な見解があります。ある授業で習ったことが、別の授業では全否定されるというように、高校時代では考えられなかったことにも巡り合うでしょう。しかし、この多種多様な考え方を学ぶことこそ、テレビやインターネットなどの「見解」であっても鵜呑みにしない知識と判断力、思考力を身につけることにつながるのです。しかも経済学部では、それを一人で勉強するのではなく、ゼミなどを通じて、異なる意見の友人たちと議論しながら学ぶのです。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、誰もが緊急事態宣言の下で自粛することを仕方のないものとして受け入れ、それ以外の考え方を持つことが許されないような、一歩間違えたと危険な雰囲気を生み出しました。ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ、ここでの戦争について、私たち一人ひとりが多様な考え方を表明することが、どれだけ許容されているのでしょうか。こうした時代だからこそ、今起きている出来事に対して、一人ひとりが複数の見解を吟味したうえで、確固とした考え方に立つことが問われます。

もちろん、勉強以外にも色々挑戦してください。私は学生時代、授業、ゼミ、部活、アルバイトのどれも力を入れ、毎日の予定が埋まっていました。他にも留学、ボランティア、遊びなど何でもよいので、皆さんが中央大学という場を最大限利用し尽くすつもりで学生生活を楽しんでくれることを、心より願っています。

正解のない経済学を学ぶ意義

さあ、夢に向けた挑戦の時間が始まります

ご入学おめでとうござります



商学部長
井上 義朗
INOUE Yoshio

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本日この日を迎えられましたことを、教職員一同心よりお慶び申し上げます。また、ご家族様をはじめ、これまで常に寄り添い、励ましてこられた皆様方にも心よりお祝い申し上げます。皆さんの夢と希望をかなえるために、少しでもお役にたてることを教職員一同願ってやみません。どうぞ、中央大学でしか得られない、充実した大学生活を築いてください。

中央大学商学部では、ビジネスの原理を中心に学んでいきます。企業を経営するにはどうしたらよいか。企業が必要とするお金はどうやって調達したらよいか。作った製品をどのようにしたら多くの消費者にとどけることができるか。そして、どのようにしたら1年間の活動の成果を正しく伝えることができるか。このうちのどれか1つが欠けても、ビジネスはうまくいかなくなります。中央大学商学部では、このそれぞれに専門学科が対応して専門的な研究と教育を行うとともに、学科間の垣根をできるだけ低くすることで、1つの専門知識だけに偏らないように、カリキュラムが工夫されています。また、ビジネスに直接かかわることだけでなく、企業をとりまく経済や法律について、あるいは歴史、環境、文化についても広く学ぶことができます。大学での学修は皆さん自身で設計するものです。ご自分の夢と希望を叶えるために、皆さんならではの時間割を作って、実りある大学生活を送ってください。

昔、ある経済学者がこんなことを言いました。「漸進もまた行動である。無為にたたずむことの上品な別名ではない。」「漸進」とは漸近線などという言葉があるように、だんだんと進むこと、少しずつゆっくり進むことを言います。毎日の学修も部活での練習も、その成果が現われるには長い時間が必要です。1日や2日でその結果が現われることはありません。そうすると私たちはつい、これでは何もしていないのと同じで、無駄な時間を過ごしているのではないかと考えてしまいます。しかし、たとえゆっくりでも、それは進んでいるのであって、止まっているのではないのです。皆さんのこれからの努力は、あとで必ず大きな実りをもたらします。それを信じて、少し難しい勉強、少しきつい練習、少し高めの目標に、果敢に取り組んでいってください。

中央大学商学部は、さまざまなかたちで皆さんをサポートします。皆さんの大学生活が、皆さんお1人おひとりにとって、かけがえのない日々となることを心より願っています。

中央大学で皆さんが成長するために



理工学部長
梅田 和昇
UMEDA Kazunori

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心から歓迎します。また、ご家族の皆様にもお慶び申し上げます。ご子女がここまで来られたことに感慨深い思いを抱かれていることと拝察いたします。

さて、皆さんは、何のために中央大学に入学しましたか？

当然、勉学のためですね。安心して下さい。理工学部の10学科では、それぞれの学科の教員が各分野に応じた優れたカリキュラムを組み立て、各科目で充実した多様な教育を行っています。皆さんは是非この環境を最大限活用して力をつけて下さい。

では、頑張っ勉強して学業を身につければそれで十分かという、そうではありません。大学は、それ以外のことも学ぶ(学べる)場です。その一つに、多様性(ダイバーシティ)が挙げられます。多様性を理解すること・実現することの社会的重要性が高まっています。大学では、様々な出身地から、多様なバックグラウンドを持ち、好み、指向、思考、考え方が違う学生が大勢集います。是非多くの学生他と交流し、皆さん自身の多様性を育てて欲しいと思います。それは、教室での学びでも得られますが、部活やサークル、ボランティア、あるいはアルバイトでも育まれるものです。ちなみに、数年前までは、理工学部は都心にある唯一の学部で、他の学部との交流が少なかったのですが、今は近くに法学部、国際情報学部があり、またコロナ禍の最大の産物であるオンライン環境の整備により、他学部との交流の機会もずっと増えました。3学部共同科目も開講されていますし、他学部履修で学ぶ理工学部生も増え、また理工学部のサークルに他学部の学生が所属することも見られるようになってきました。

さて、理工学部の皆さんに今から意識しておいて欲しいことは、4年生以降のことです。4年生になれば、皆さんは研究室に所属して学びの集大成として卒業研究に取り組みます。この段階に至ると、皆さんの生活は研究室での活動、研究一色となります。また、半数近くの学生は、大学院に進学します。卒業後のキャリアパスを考え、今から大学院進学を想定しておいて欲しいと思います。また、国の方針ともなっていますが、中央大学においても博士後期課程をより拡充していくことを今後進めていく予定です。是非そこまで視野に入れておいて欲しいと思います。

皆さんが中央大学で大いに成長されること、そして充実した学生生活を過ごされることをお祈りしています。

多様性の素地を育んでください



文学部長
緑川 晶
MIDORIKAWA Akira

文学部は非常に多様性に富んでいます。文学部という名前から、小説などを中心に学ぶ学部だと誤解されがちですが、より適切には「人間について学び・考える場」と捉えていただくと良いでしょう。過去から現代までの人間が何を考え、何を残し、どのように生きてきたのかを学び、そして人間について考えるための場という意味です。人間に興味を持つすべての人にとって、最適な学びの場です。

文学部の専攻には文学、歴史、哲学、社会学、教育学、心理学などが含まれています。文学の範囲も日本だけに留まらず、アジアやヨーロッパの文学や文化にも及びます。歴史の学びは、文字記録が残る以前、1万年以上前の時代まで遡りますし、また、インターネットやSNSを含む現代社会についての学びもあります。このように、文学部の学びは時間と空間を越えて広がります。

さらに、共通科目として宇宙や生物進化の自然科学、法律、経済、政治など、現代社会に必要な知識も学べます。

このように文学部で過ごすことで私たちが生活する世界を学ぶことにつながります。たしかに、知という点では十分かもしれませんが、大学生活にはこれだけではない魅力もあります。その一つがサークル活動でしょう。中央大学には文学部以外にも様々な学部があり、学部の垣根を越えたサークル活動があります。サークルでは学部の友人以上に、様々な価値観や考えを持った人がいます。ぜひともそのような人々と出会い、その視野を広げて下さい。

また、可能であれば様々なアルバイトにもチャレンジしてみるのが良いでしょう。アルバイトでは、大学生だけではなく、様々な立場の人々、様々な年代の方々と出会えるきっかけとなります。

大学での4年間は今後の人生にとってかけがえのない時期ですが、その中身を作るのは皆さんです。この先の4年間も社会がどのように変わるかわかりませんが、その先の将来は誰にも見通すことができません。しかし様々なことを学ぶことで、多様な素地を育み、多様な人々と交わることは、将来への準備としてきっと大きな力となることでしょう。

近影と遠景を眺め、希望を持って



総合政策学部長
堤 和通
TSUTSUMI Kazumichi

ご入学おめでとうございます。総合政策学部教職員を代表し、皆さんのご入学を心から歓迎します。

皆さんは大学に入り、高校生活や受験勉強で要求されることから解放され、卒業後に見込まれる就職や進学先で求められることには直面しない自由を得ました。この自由を最大限活かしてしてもらいたいと思います。

自由の活かし方は様々あり得ますが、皆さんは総合政策学部に入学したことを忘れないでください。

総合政策という何か難解で、あるいは掴みどころがないという印象を持たれることがありますが、そうではありません。

ここで、『ジャスト・マーシー』の著作があるアメリカの弁護士スティーヴンソンのメッセージに目を向けてみます。スティーヴンソンは差別と闘い冤罪を救ってきた著名な弁護士です。スティーヴンソンによれば弁護に当たる依頼人のことをよく知ることと、依頼人が不当に不利益を被っている社会的背景を探ることが重要であるといえます。当然のことのように聞こえるかもしれませんが、前者で大事なものは、何か一般化できる視点では捉えきれないひとり一人の事情に目を向けるということです。依頼人の環境に見出せそうな要因を、一般的なルールが当てはまるかどうかという問いを立てて探すのでは足りない、ということです。

ひとり一人にそれだけの関心を寄せることで、一般的な視点、一般的なルールが未だ捉えていない事情が発見できた場合に、次には、その事情を生んだ社会的背景を探ること、制度や文化的期待に手当てをして改善を図ることが求められます。

遠景から、法や経済、政治の制度と、各制度設計や運用を決める文化が捉えられ、近影でひとり一人の生活世界が捉えられますが、そのときの関心は、問題が正しく解決されているかということです。善い社会を決める価値、善い社会で維持、促進される価値を見定めなければなりません。

近影、遠景を的確に捉えるとき、それも、問題の発見と解決という関心から捉えるとき、スティーヴンソンが説くもう一つ大事なこと、希望が欠かせません。問題は深く、また、絡み合っています。その認識の下、解決策を導き出す決意、態度決定にはわたし達社会への希望がいるでしょう。

皆さんは総合政策の学びの入り口にいます。その意義を十分に認識し、歩みを進めてください。



国際経営学部長
中迫 俊逸
NAKASAKO Shun-itsu

I would like to welcome all of you to Faculty of Global Management of Chuo University, which we call it GLOMAC.

“Fostering the Ability to apply knowledge to practice” is the slogan of Chuo University and our slogan of GLOMAC is “Be Ahead of the World.” We are providing education and research for you on management, economics, data science, global area studies, and other related academic fields at GLOMAC. We wish that you will bring benefit to the world and will work for the prosperity of the world as one of the leaders in the global society.

I wish that you will make a lot of friends at GLOMAC, because I would like you to experience diversity by learning a lot from each other and will be able to look at things from different cultural points of view. The four years of college life at GLOMAC will provide you a great opportunity to make life-long friends, so I would like you to enjoy the rich opportunities available at GLOMAC.

The faculty members and our office staff all wish that you will learn a lot and will understand many different perspectives of people who are from different cultural background at GLOMAC. Please embrace the variety of rich opportunities at GLOMAC.



国際情報学部長
平野 晋
HIRANO Susumu

国際情報学部 (iTL) が創設されて以来、学びの対象としてきた主な分野は、インターネットとサイバースペース、AIとデータサイエンス、ロボットとCPS (Cyber-Physical System)、更にはメタバースとアバターでした。そこに一昨年からは、〈生成AI〉が新たに加わりました。その生成AIの一種である〈音声AI〉は、SF映画「ターミネーター」シリーズの技術を実現させました。同シリーズでは、アーノルド・シュワルツェネッガー演じる主人公の殺人ロボット〈ターミネーター〉が、標的であるジョン・コナー少年そっくりの音でしゃべる場面があったところ、今ではそれが現実になってしまったのです。だからその悪影響——例えば特殊詐欺への悪用——への対策も講じなければなりません。

ところで生成AIは、普通のAIよりも〈高度なAIシステム〉と呼ばれます。高度であると呼ばれる理由は、その〈創造性〉にあります。すなわち生成AIは、既存のAIとは比べ物にならない程に大量の情報を学んだ後に、新たな情報を「生成—generate—する」こと、言い換えればその〈創造性〉ゆえに〈高度なAIシステム〉と呼ばれるのです。

生成AIが高度であるもう一つの理由は、その〈汎用性〉にあります。問いを書き込むと答えの文章を瞬時に生成・表示してくれるAIが生成AIの代表例ですが、他にも画像、動画、音楽、そして〈音声AI〉等々のように様々なコンテンツを生み出すことが出来ます。囲碁や将棋のような特定の目的にしか利用できなかった〈特化型AI〉と異なり、生成AIは多様な目的に利用できる汎用性ゆえに高度なのです。

以上のような〈創造性〉と〈汎用性〉を兼ね備える高度なAIシステムは、これまで以上にヒトの能力に近づいているので、〈AGI〉と呼ばれる、ヒトと同等以上の能力を有するArtificial General Intelligenceの出現も遠い未来ではなく、将来の混乱を懸念する声も聞かれ始めました。

高度なAIシステムの諸課題を解決する為には、まずは生成AIの仕組みを理解しなければなりません、それだけでは不十分です。AIの欠点や危険性を抑え込む為には、法律等のルールによって規制する必要性も出てきますから、法律の知識も必要になるのです。

幸い皆さんは、私達が知る限り日本で唯一無二のiTLに於いて〈IT:情報の仕組み〉と〈L:情報の法学〉の双方を学ぶことが出来ます。加えて〈グローバル教養〉も身に付けられますので、高度なAIシステムに続いて必ず出現するであろう更なる新興技術——例えば〈AGI〉——が世界を変革させても、時代の変化に対応できる普遍的な考え方を育むことも出来ます。iTLの教育研究を通じて、様々な新興技術が生む諸課題を解決できる能力を養って、より良い社会構築に貢献できる人材となることを期待いたします。

「生成AI」の負の影響を極小化せよ！